

新古今 歳時記

平成 27 年 6 月

戦前の歳時記の様子を紹介した故林鼓浪の連載をもとに、昔懐かしい行事など、現在と比べながら、話題のイベントを紹介していきたい。
6月と言えば、田植えシーズンも終わり、カエルが鳴きだす頃、アジサイなどの花々だけでなく、いろいろな農作物が実る季節。夏を前に、清流のホテル祭りなど、いろいろなイベントがあるよ！



那賀町あじさいの谷

昔 64 年前の連載より

この9日は旧暦5月5日に当たる。武家邸では門口に飾幟を出したもので、当時新蔵町や寺島本町辺の邸門には戸毎にお幟見をさせたという。また街頭を飾る町人の趣向も大掛かりで船場町に幅杯のカブトをむしろでこしらえたのや、屋根の上に田原藤太の百足退治の見流し人形を造つて人目を驚かしたが、いまだに話の種を残しているのは清源坊と鬼女の姿である。

に飾り、燭台の光りに照らしてうな鬼女の眼をきらつかせて道行く人の足をとどめたものであった。そして鬼女も清源も悪疫が流行すると必ずとり出してお祭りをするのが例になっていたのである。

節句がすむと12日が入梅でじめじめした日が続くが、下旬にはホテルが盛る。県下では山瀬町のホテル橋が著名だが、阿波名所図絵には海部郡の母川を紹介してある。いまの人は町内挙げてホテル狩に出かけた風習はおそろく知らないだろう。竹竿の先に袋を取り付けたのを各戸から用意して、幾つもの団体がわめき叫んでホテル狩をするにぎやかさは6月の行事の一つとして特筆される。国府町の矢野は入田村からの川筋に夜の幕が下りると、中空をこがすようなホテル火が流れてその壮観は一見に価する。眉山ではこのごろ昼日中をほととぎすが鳴いているが、誰も耳を傾けそつにもない。

昭和26年6月 徳島新聞連載
阿波歳時記 六月の巻より抜粋
著者：絵師郷土芸能研究家
林鼓浪 はやし ちやうつ

(1887-1995)

祭・イベント

美郷ほたるまつり
(吉野川市美郷)

1〜2日 竹ヶ島神社祭り
(海部郡海陽町)



写真：竹ヶ島神社夏祭り
※前月号では誤った開催日を掲載しました。
お詫びいたします。

5・6日

与川内ホテルまつり
(海陽町高園)

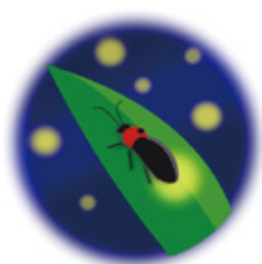
櫛木ホテル祭り
(鳴門市北灘町)

アユ漁解禁
麦秋の季節
青梅実る
ホトトギス鳴く
青梅実る
ビワ実る
ラッキョ出回る
カエル鳴く
ホテル飛ぶ
アジサイ咲く

季節の風物詩

梅熟す

サクランボ実る



時の記念日



入梅
腐草為虫
くされたるくさはたるくなる

三りんぼう
蠅螂生
かまきりしようす

歯と口の健康週間
三りんぼう

環境の日

芒種
ぼうしゅ

満月

新暦・旧暦

雑節・祝日

気象記念日
麦秋至
むぎのきふいたる

つちのえ
とり

四緑先勝

かのを
いぬ

五黄友引

かのを
い

六白先負

かのを
ね

七赤仏滅

みずのと
うし

八白大安

きのを
とら

九紫赤口

6月

1月

2火

3水

4木

5金

6土

7日

8月

9火

10水

11木

12金

13土

つちのえ
さる

三碧赤口

つちのえ
とり

四緑先勝

かのを
いぬ

五黄友引

かのを
い

六白先負

かのを
ね

七赤仏滅

みずのと
うし

八白大安

きのを
とら

つちのえ
さる

三碧赤口

つちのえ
とり

四緑先勝

かのを
いぬ

五黄友引

かのを
い

六白先負

かのを
ね

七赤仏滅

みずのと
うし

八白大安

きのを
とら

つちのえ
さる

三碧赤口

つちのえ
とり

四緑先勝

かのを
いぬ

五黄友引

かのを
い

六白先負

かのを
ね

七赤仏滅

みずのと
うし

八白大安

きのを
とら

つちのえ
さる

三碧赤口

つちのえ
とり

四緑先勝

かのを
いぬ

五黄友引

かのを
い

六白先負

かのを
ね

七赤仏滅

みずのと
うし

八白大安

きのを
とら

1	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14
水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日
四緑友引 つちのえ とら	五黄先勝 ひのと うし	六白赤口 ひのえ ね	七赤大安 きのと い	八白仏滅 きのえ いぬ	九紫先負 みずのと とり	一白友引 みずのえ さる	二黒先勝 かのと ひつじ	三碧赤口 かのえ うま	四緑大安 つちのと み	五黄仏滅 つちのえ たつ	六白先負 ひのと う	七赤友引 ひのえ とら	八白先勝 きのと うし	九紫赤口 きのえ ね	九紫大安 みずのと い	八白友引 みずのえ いぬ	七赤先勝 かのと とり
旧 5.16	旧 5.15	旧 5.14	旧 5.13	旧 5.12	旧 5.11	旧 5.10	旧 5.9	旧 5.8	旧 5.7	旧 5.6	旧 5.5	旧 5.4	旧 5.3	旧 5.2	旧 5.1	旧 4.29	旧 4.28

三りんぼう 全国安全週間	梅子黄 うめのみきはむ	三りんぼう	父の日 父の日	夏至 乃東枯 なつかれくさかるる	沖縄慰霊の日	菖蒲華 あやめはなぞく	貿易記念日										
-----------------	----------------	-------	------------	------------------------	--------	----------------	-------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

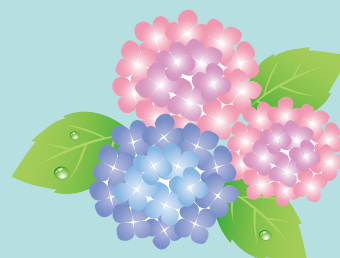


13〜20日 母川はたる祭り
(海陽町高園)

20日11時〜 清玄坊祭り
(徳島市春日会館)

20・21日
大歩危リバーフェスティバル
(三好市山城町)

21日 内妻あじさい祭
(牟岐町)



クチナシ咲く
きゅうり出回る

※掲載のイベントなどの情報は変更になる場合もありますので、ご了承ください。

今 清玄坊祭り

故林鼓浪の連載「阿波歳時記」の六月分を右頁に紹介した。季節はホテルが飛交う時期、海部郡の母川などを紹介しているが、鑑賞を楽しむより「ホテル狩」で賑わっていたという、今では非常に珍しい風習を紹介している。記事のほとんどは、紙屋町(現・一番町)の「清玄坊祭り」の話。題がメインだが、この祭りをご存知の方はどれくらいいるだろうか。著者の私も幼少期にこの清玄坊が討たれた場所だと伝わる三角公園(寺島東公園)でよく遊んだ記憶があるが、この祭りのことは知らなかった。故林鼓浪が紹介している通り、昔は約6階建ての高さを誇る清玄坊の紙はり首を万力で上げ空中を泳がしたという。しかし現在は、規模を縮小し、清玄坊が殺された節句にあわせ、毎年旧暦5月15日に細々と祭りを続けているそうだ。今回の取材で分かったことだが、この祭りを長年、代表として務められた野崎氏が昨年11月に惜しくも亡くなったこと

と。今年からは祭り会場を眉山山麓の春日会館に移して開催予定だとか。
長年受け継がれてきたこの祭りも存続の危機に立たされている。町内会の人口現象、高齢化など中心市街であっても現実是非常に厳しい。



写真：少し懐かしい清玄坊祭りの写真(昭和50年)



取材デザイン編集
上野昇(ののちゃん)
四国大学
生活科学部講師

せいげんぼうまつ 清玄坊祭り

日程：6月20日(土) 予定
11時〜 ご神事

場所：春日会館5階
徳島市眉山町大滝山1-2